

4.TPP

- ① TPPに対する認識
- ② TPP参加による影響と対策

5.土木公共事業のあり方

- ① 従来型の大型土木公共工事の扱い
- ② 「インフラマネジメント計画」のとりくみ

三 福祉問題について

1.介護問題

- ① 高齢者虐待問題
- ② 職員の処遇対策

2.カラーユニバーサルデザインの導入

四 教育問題について

- 1.雇用ルールの学習
- 2.検定中の教科書閲覧問題

一般質問の質疑から（一部抜粋）

一.知事の政治姿勢について

1.安保法制・憲法

佐々木

知事は、安保法制について「わが国の平和国家としてのあり方は今後も変わらない。国民の命と平和な暮らしを守る観点から、法の運用がされる」と私に答弁されている。

しかし、今後の自衛隊の活動は、世界から日本が戦争に参加したとみなされ、事実、そのとおりになる。知事の期待する「平和国家」とはみなされず、日本人は攻撃の対象になる。

- ① このようナリスクを覚悟した上での認識か。改めて、法についての見解、今後の日本人への影響について問う。
- ② 憲法尊重擁護の義務を負う知事に、安倍首相の憲法「改正」についての考え方、「立憲主義」についての見解を問う。
- ③ 「緊急事態条項」の導入についての見解を問う。

村岡知事

- ① どこまでも国民の命と平和な暮らしを守る観点に立って制定されたものであり、その趣旨に沿って、わが国の平和と国民の安全が脅かされることのないよう運用がなされると考える。
- ② 憲法改正を行う場合は、国会審議や国民的な議論と理解の中で定まってくるものだから、見解を述べる立場ではない。安倍総理の考え方についても同様だ。また、立憲主義は、主権者たる国民が、憲法により国民の基本的な人権を保障すると

いう近代憲法の基本となる考え方であり、堅持されなければならない。

- ③ 憲法改正に関する事柄だから、見解を述べる立場にない。

佐々木

知事は政治家だから見解を述べる立場にある。述べたくないというのが本音だろう。それなら、ノーコメントと言えばいい。述べる立場にないというのはまちがいだ。

また、今、国民の間に安倍首相の方針に沿った憲法を変えようという議論が起っていると思われるか。

村岡知事

先ほど答弁したように改正の必要性、内容について、見解を述べる立場にはない。

また、憲法改正についてさまざまな考え方があると思う。社会の要請や時代の変化等に応じて、さまざまな議論が行われるということはあり得ると思う。



知事は、まっ正面から答えず、議論がかみ合っていませんね。

ちなみに、山口県議会は、自民・公明などの議員の数の力によって、「戦争を抑止し、国民の安全と生命を守る法制に関する意見書」（2015年6月議会で可決）として、国に対し、安保法制の早期成立を促す意志を示しています。

さすがに県議会も「保守王国」らしい振る舞いです。

しかし、この意見書の名称を見るたびにふざけるな!と一喝したくなります。